

# 夏播き年内収穫利用向

## ムギ類の品種特性と栽培のポイント

雪印種苗(株) 宮崎研究農場

八 谷 寿

### 1 はじめに

夏播きムギは、関西以西～西南暖地を中心に、トウモロコシの収穫後、短期間で生育し、年内に収穫ができるため幅広く利用されています。トウモロコシと夏播きムギを組み合わせた作付体系は、冬期間に堆肥散布が可能で、早期に圃場準備が完了し、トウモロコシの早播きを行なえるメリットもあります。

ここでは、トウモロコシや暖地型牧草の後作に適した、夏播きムギ類をご紹介します。これから作付を予定している方々への参考に供したいと思えます。

### 2 夏播き年内収穫が可能な作物とは？

8月中・下旬からの播種になり、年内に出穂し、かつ安定乾草取量を確保できるということ

になれば、極早生のエンバクやオオムギがメインとなります。主な品種とその利用特性について表1に示しました。

この時期の乾草利用の場合は、予乾に日数が必要で、土壌条件が適合すれば、より乾きの早いオオムギ新品種・ワセドリ2条の利用をお勧めします。

表1 主要ムギ類の夏播き利用特性と播種量

草種名	品種名	早晩性	播種量(kg/10a)	青刈り	乾草	サイレージ
エンバク	スーパーハヤテ[隼]	極早生	6~8	○	×	○
	サビツヨシ	極早生	6~8	○	×	○
	ハイオーツ	早生	4~6	△	△	○
オオムギ	ワセドリ2条	極早生	8~10	△	○	○

○：最適、△：適、×：不適



写真1 スーパーハヤテ「隼」は出穂が早い超極早生種

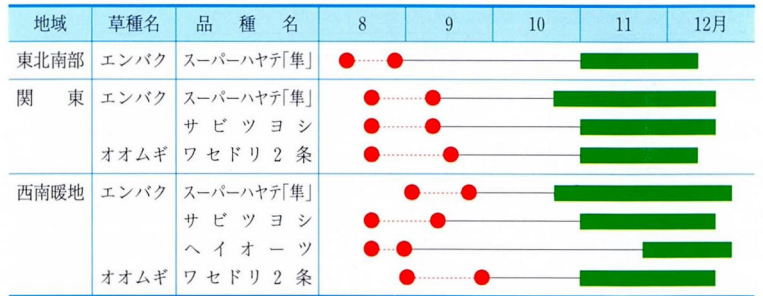


図1 夏播きムギ類の作付体系例

### 3 地域別の最適品種とその利用法

夏播き年内収穫利用の作付けで、最も重要なポイントは、播種限界をきちんと守ることです。地域、作物によって播種期が異なり、播種にあたっては、どの作物がいつまで播種できるかを把握することが重要です。そこで府県を大きく東北・関東・西南暖地の3地域に分け、各地域にあった作物と栽培のポイントをご説明いたします(図1)。

#### 1) 東北地方

東北地方は冬の訪れが早いために、夏播き栽培は東北南部の条件の良い地帯に限られてきます。



写真2 新品種ワセドリ2条

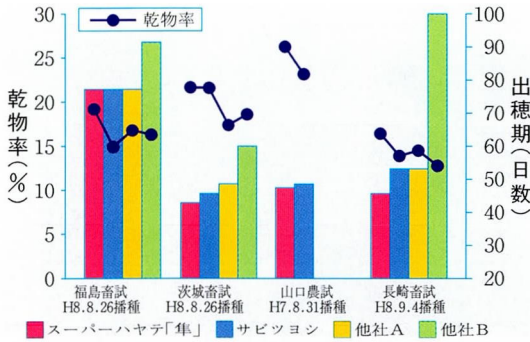


図2 スーパーハヤテ「隼」の出穂期と乾物率

ここでは栽培期間が短い、極早生エンバク・スーパーハヤテ「隼」が最適です(写真1)。一般にエンバクを未出穂で収穫した場合、水分含量が多く、高水分のためサイレージの発酵品質も不良となりやすく、また、未出穂のエンバクは降霜により倒伏しやすくなり、収穫作業も困難にします。この点エンバク・スーパーハヤテ「隼」は、流通エンバク品種の中で最も出穂が早く、安定した収穫が可能です(図2)。

## 2) 関東地方

関東地方ではスーパーハヤテ「隼」に加え、冠さび病抵抗性エンバク・サビツヨシ、さらにワセドリ2条(写真2)が加わってきます。関東地方での品種選定のポイントは、期待される利用方法(青刈り、サイレージ、乾草)と病害耐性で選ぶこととなります。

また、これらムギ類とイタリアンライグラスを混播する栽培方法では、ムギ類を中心に年内収穫し、翌春にイタリアンライグラスを収穫できる、有力栽培方法の一つとなります。

ムギ類は利用方法によって、最適草種(品種)の選択が可能であり、青刈り・サイレージ利用の



写真3 サビツヨシは冠さび病に極強  
(左側：サビツヨシ 右側：アーリーキーン)

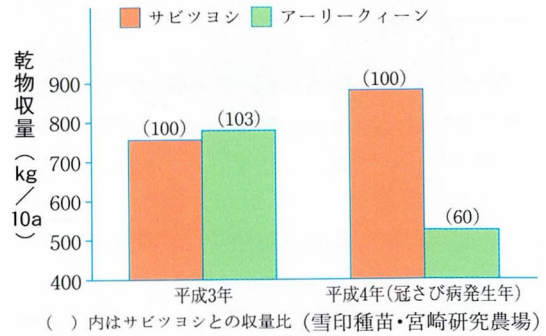


図3 サビツヨシの安定した収量性

場合はスーパーハヤテ「隼」、またはサビツヨシを、乾草・サイレージ利用の場合は、ワセドリ2条をご利用下さい。

また、エンバクの冠さび病多発地域では、利用方法を問わず、サビツヨシをお勧めします。冠さび病は、エンバクの茎葉に赤橙色の粉が付着する病害で、激発するとエンバクが枯死し大幅な減収となります(図3)。サビツヨシは冠さび病に完全な抵抗性を示す品種で、本病の激発地域でも安心して利用できます(写真3)。

## 3) 西南暖地

西南暖地では、基本的には関東地方と同じ作物が栽培できます。関東地方に比べ秋期が温暖なため、播種期間がやや長いのが特徴です。スーパーハヤテ「隼」やワセドリ2条は、9月20日頃まで播種可能です。イタリアンライグラスとの混播は、9月上旬から9月中旬に播種します。

また、8月中にエンバクを播種する場合は、冠さび病が多発することがあります。冠さび病の多発地帯では、サビツヨシをご利用ください。

ロールベール利用の場合は細茎エンバク・ヘイオーツや、乾きの早いワセドリ2条をお勧めしま



写真4 ワセドリ2条は出穂が早い  
(左側: ワセドリ2条 右側: 他社品種)

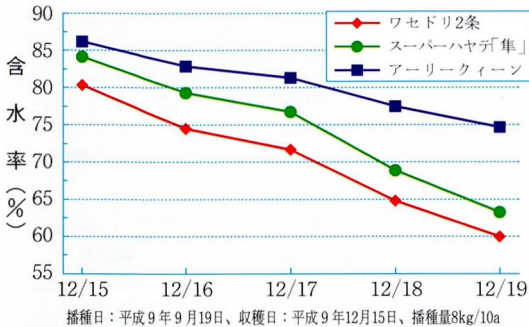


図4 ムギ類の乾燥速度 (雪印種苗・宮崎研究農場)



写真5 ワセドリ2条はうどんこ病に極強  
(左側: ワセドリ2条 右側: 他社品種)

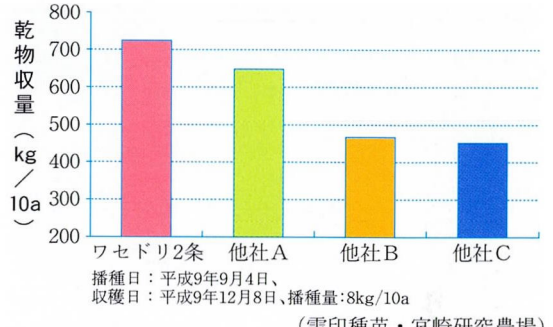


図5 9月播きオオムギの乾物収量

す。ハイオツの出穂を確保するには8月末までの播種が必要です。

## 4 オオムギ新品種「ワセドリ2条」の紹介

オオムギ新品種ワセドリ2条は、旧系統の耐倒伏性、耐病性、乾物収量をさらに向上させた、極早生の飼料用二条オオムギです(写真4)。ワセドリ2条は、夏播き年内収穫利用はもちろん、秋播きイタリアンライグラスとの混播利用が可能です。

### 1) ワセドリ2条は乾きやすい

ワセドリ2条は乾きやすい品種です。本品種を9月播き(12月15日刈取り)でエンバク2品種と乾燥速度を比較しました(図4)。水分の低下を1日毎に調査した結果、ワセドリ2条はエンバク2品種より乾きやすく、刈取り3日後で水分は約65%に低下しました。エンバクより予乾日数が短くてすみしますので、これまでエンバクを乾草利用されていた方には、より乾きやすいワセドリ2条の乾草利用をお勧めします。

また、他社の未出穂エンバクは水分の低下が遅

く、予乾に日数を要しました。

### 2) 乾物多収

平成9年夏播き試験の結果では、ワセドリ2条はオオムギ品種の中で、乾物率が高く最も乾物多収でした(図5)。ワセドリ2条の乾物収量は他社オオムギより多収で、スーパーハヤテ「隼」並みの収量が期待できます。

### 3) 耐病性、耐倒伏性

オオムギの重要病害にうどんこ病があります。本病は主に春の多湿・温暖(15~22°C)条件下で発生します。罹病したオオムギは葉の表面に白色の斑点を生じ、徐々に拡大し、うどん粉をまいたようになり、最終的に罹病葉は枯れ上がってしまいます。ワセドリ2条はうどんこ病抵抗性品種ですので、本病発生年でも安定した収量が得られます(写真5)。

また、ワセドリ2条は耐倒伏性にも優れており、倒伏によるロスや、サイレージ品質の低下がなく、安心して利用できます(写真6)。

### 4) イタリアンライグラスとの混播栽培について

イタリアンライグラスはワセドリ2条と組み合わせ、夏播きや秋播きで混播栽培が可能です。



写真6 ワセドリ2条は倒伏が強い  
(左側：ワセドリ2条 右側：他社品種)

混播はイタリアンライグラスの単播栽培より、年間収量の増加やサイレージの嗜好性・物理性の改善、倒伏の軽減、イタリアンライグラスの冬枯れ防止などが期待できます。混播するイタリアンライグラス品種は、直立型で再生力の優れた早生品種タチワセ、またはタチマサリをお薦めします。

夏播きの場合、出穂したワセドリ2条を11月～12月上旬に収穫し、翌春にタチワセ（タチマサリ）再生草を収穫します。混播の播種量はタチワセ（タチマサリ）を3 kg/10a、ワセドリ2条を4～5 kg/10aを標準とします。

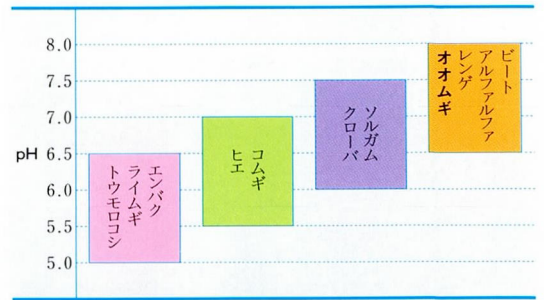
秋播きの場合、翌春の3月末～4月上旬に、タチワセ（タチマサリ）は未出穂ですが、ワセドリ2条の出穂期で一番草を収穫し、その後再生したタチワセ（タチマサリ）を、4月下旬～5月に収穫します。混播の播種量はタチワセ（タチマサリ）を2～3 kg/10a、ワセドリ2条を4～5 kg/10aを標準とします。

### 5) 栽培について

## 甘くて倒れないスーパー品種

### 高糖分ソルゴー（中生:FS501）

- サイレージ発酵がよく、サイレージが簡単につくれます。
- 牛の夏バテを青刈給与で防止できます。
- トウモロコシとの混播にも最適です。



(農学大事典より抜粋)

図6 飼料作物の耐酸性の違い (生育に適するpH域)

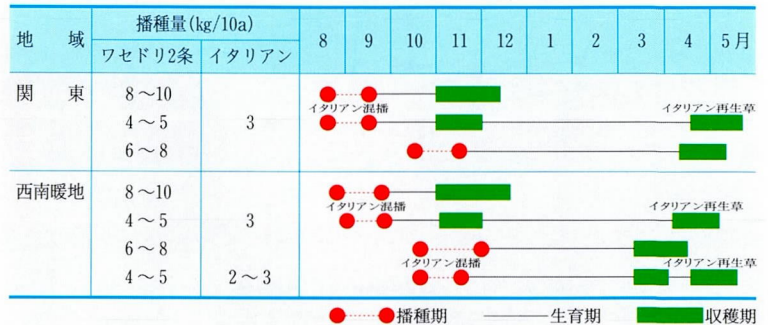


図7 オオムギ「ワセドリ2条」の作付体系例

### ①土壌条件に注意

図6に示すように、オオムギの最適pH6.5～8.0と中～弱アルカリ性土壌を好みます。酸性土壌では根の活性が失われ、黄枯れ症状となり減収します。酸性土壌でオオムギを栽培する場合は、石灰を多目に投入しpH改良が必要です。

また、オオムギは耐湿性に劣りますので、中～過湿田での栽培は避けてください。

### ②作付体系・播種量

ワセドリ2条は夏播きのみでなく、秋播きも可能です。具体的な作付体系例を図7に示しました。

## 5 まとめ

夏播き年内収穫が可能な、ムギ類の特性や使い分けについて紹介しました。夏播きムギ栽培で最も重要なのは、適期播種と利用方法（青刈り、サイレージ、乾草）に適した草種・品種を選択することです。

それぞれの品種特性をうまく利用され、皆様のより良い自給飼料生産に、お役立ていただければ幸いです。